

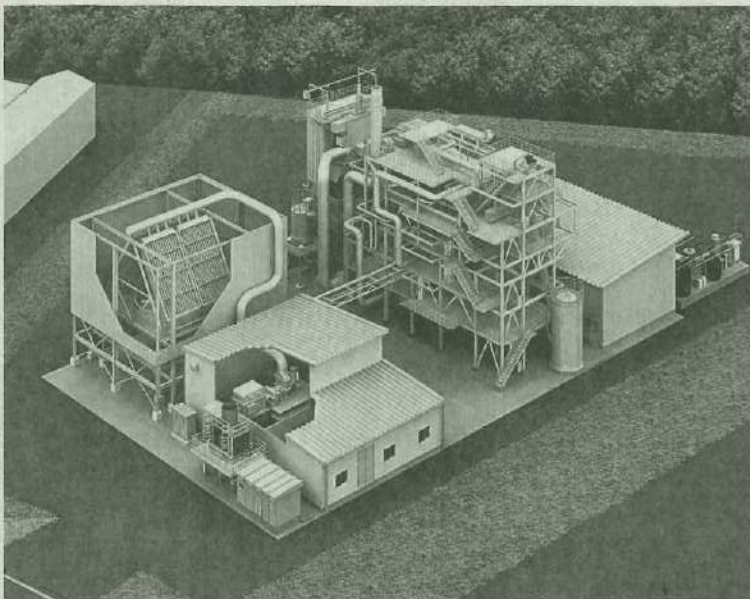
燃料はキノコ栽培廃材

松阪 バイオマス発電所起工

キノコ栽培の使用済み培地（廃菌床）を燃料に使うバイオマス発電所の起工式が17日、松阪市木の郷町の建設予定地で行われた。発電所は2025年1月に運転開始予定で、発電した電力のほぼ全てが、廃菌床を出した多気町のキノコ栽培施設に供給される。この施設の二酸化炭素（CO₂）排出量を大幅に削減できるほか、再生可能エネルギー資源利用の地域循環にもつながるといふ。

【斎藤良太】

パワーエイド三重合同会社・バイオマス松阪発電所（同市）によると、建設所の年間想定発電量は約する「パワーエイド三重」1600万キロワット。燃料は、



パワーエイド三重・バイオマス松阪発電所の完成イメージ図。パワーエイド三重合同会社提供

再生エネ資源利用の地域循環期待

キノコ生産大手・ホクトの「三重きのこセンター」（多気町）から出る廃菌床に加え、水分が多い廃菌床を燃焼しやすくするために、中部圏から出る木の廃材や廃プラスチックを原料とする固形燃料（RPF）なども使用する。

ホクトによると、三重きのこセンターは年間で約1500万キロワットの電力を消費する。この発電所からの電力に加え、施設内の太陽光発電を利用することで、使用電力のほぼ全量をまかなえる。さらに、同センターの年間排出量の約7割に相当する、約5700トンのCO₂を削減できるといふ。

パワーエイド三重の西川弘純・職務執行者は起工式で「ロシアのウクライナ侵攻など世界情勢が刻一刻と変わりエネルギー資源も高騰する中、この事業が、エネルギー自給率の上昇や、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）にも寄与していくと確信している。全国に広がっていく事業にしていきたい」と抱負を語った。